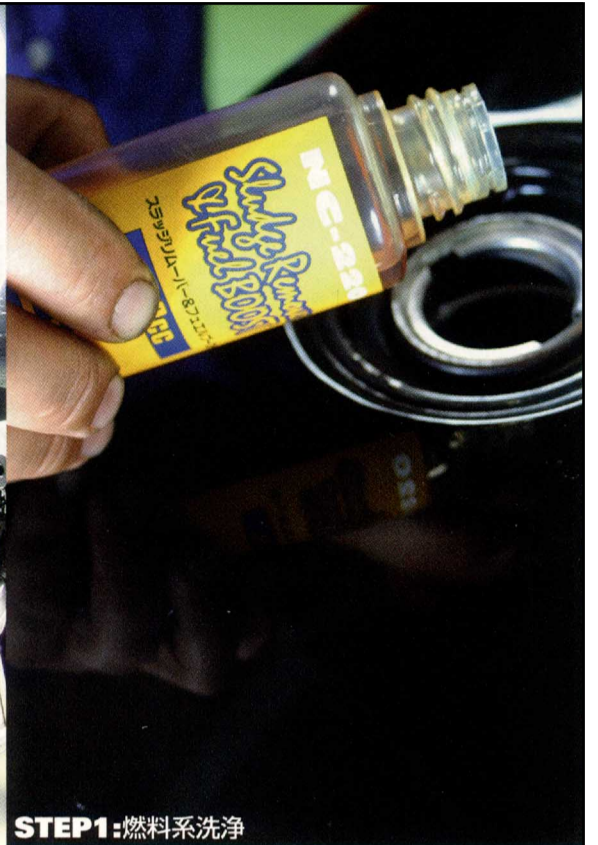


STEP2: 燃焼室洗浄



STEP1: 燃料系洗浄

主立った不具合を直したGSXRニューテック号は、次なるステップに進むためニューテックが奨めるパワーアッププログラムを試すことにした。これは数あるニューテック製品の中から選ばれたケミカルを組み合わせて、エンジン本来の性能を甦らせるというもの。距離を走り溜まった汚れを取るだけではなく、新車にも僅かにある気筒間の圧縮圧力の差など製品誤差を、ケミカル効果で極力埋めてしまおうというものだ。

まず使うのはNC-220スラッジリムーバー&フューエルブースト。この添加剤はタンク&フューエルライン&キャブを洗浄するもので、燃焼効率まで上げると評判の一品だ。実はこれまで、燃料添加剤で大した効果を体感したことのない担当者は「人間で言うリポピタンD（＝気休め）のようなものだろう」と力をくくっていた。しかし予想外のハーピングでその効果を体験することだ。

満タンのGSXRに注いで100kmほど走行すると、そのうちキャブがく

oil + chemical で走り を復活
ニューテック 不 動 車 再 生 術
Vol.4

Text & Photo/Kazuma Takagi 高城一磨
 取材協力/秋葉モーターサイクル Phone 046-274-8198 <http://www.akibamc.com/>
 ニューテックジャパン Phone 045-628-2055 <http://www.nutec-japan.com/>

clubman's Test & Report

【第4回: パワーアッププログラム・前編】

本来の性能を発揮させるため
 パーツコンディションを整える、
 それ即ちパワーアップの近道なり

オイル漏れも無事止まり、いよいよ仕上げに入ったGSXRニューテック号。旧車のみならず新車にも効果があると噂のパワーアッププログラムを投入！今回はまず前編として、燃料系と燃焼室の掃除から。エンジンをバラさずともキレイに洗浄するというその効果を、実際に確認してみました。



先生と云えば
 やはり……？

逃げようにも逃げられなくなった秋葉さん。「エンジン内部を確認したい」というこちらのワガママに対し、ヘビーな腰上分解作業も黙々とこなしてくれました。深夜まで営業している働き者のバイク屋さんです。

STEP1: 燃料系洗浄



試しにタンク内を覗けば、サビらしきものは見える範囲にはナシ。おそろく見えない奥の汚れを取ってくれた模様。



再びキャブをバラしフロートチャンバーを見れば、この状態。これじゃ詰まるワケです。洗浄後はもちろん快調に。



キャブのフロートチャンバー内に残っているガソリンを抜いてみれば、粒子の細かなサビがドロドロと登場。

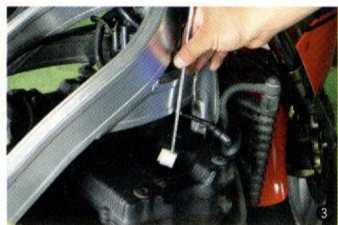
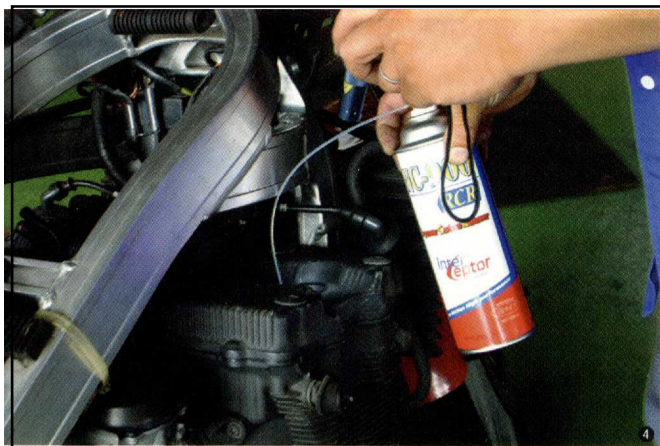


エンジンを停めれば、路面にはお漏らしが。直したはずのオーバーフローは、NC-220注入後断続して再発。



フューエルブースト注入後、徐々に調子を崩したGSXR。先生も試乗では「段付き加速」は感じた様子。

NC-220で調子が悪くなった!?



STEP2:燃焼室洗浄

NC-900RCRは ショップでの施工が基本

- ①まずはプラグをすべて外す。4バルブのGSX-Rはプラグホールが細く深いため、マグネットタイプのプラグレンチを使うと作業もかなりラクである。
- ②外した4本のプラグ。NC-220の効果でキャブが調子を崩していたため、焼け具合にややバラつきが出てしまった。
- ③次に行うのは、各気筒のピストンの位置(高さ)を揃えること。セルを少しずつ回すことで調整する。ピストン位置の簡単な確認方法として、ドライバーなど長めの棒状のものをプラグホールから差し込み、位置をマーキング。4つ同じに揃えればOKだ。同じ位置、同じ角度から差し込むのがコツだ。
- ④高さが揃ったらNC-900RCRを注入。
- ⑤プラグホールから覗いたところ。燃焼室が泡で一杯なのがわかるだろうか？

パワーアッププログラムの中心となるのが、NC-900RCRを使った燃焼室の洗浄だ。これは泡状のカーボン除去剤で、プラグホールから注入しピストンやバルブ周りの汚れを溶かすというもの。エンジンを暖機後、多気筒エンジンなら各ピストンの高さを極力揃えプラグホールから充填。約30分放置し汚れが溶けるのを待つ。あとはコンプレッサーを利用したバキュームツールを使って、汚れた液体をすべて抜き取り、エンジンをかけてフニャフニャになったカーボンを燃やしてしまおう。確実な効果を発揮させるには必要な工具が多く施工方法にコツが必要なため、個人ユーザーへの単体販売は基本的にっていない。

予想以上に強い洗浄力を発揮!

30分ほど放置後バキュームツールで液体を強制的に抜き取り、あとはエンジンをかけアイドリングさせふやけた汚れを燃やす。その後エンジンを冷まし分解したところ、施工前との違いは明らかに。全体を薄いカーボンに覆われていたピストントップは、まだ汚れが残るも

の半分以上金属地が見え、燃焼室側もバルブ周りやスキッシュが本来の色を取り戻していた。オーバーホールをするにはまだ早い、ただ少しずつ調子を落としている気が……そんなときに試したいケミカルだ。僅か1万キロ走行の汚れにも効果がありました。



注入後少し間をおいてから、中の液体をスポイトで吸い取って見た。出てきたのは茶色い液体。カーボンらしき細かなカスも浮いていた。比較的キレイと思っていた燃焼室だったが、強力な洗浄液でしっかりと汚れを溶かしている様子だった。



中の様子は……？



施工後

施工前



ずり始め、加速は段付きになるしアイドリングも不調になってしまったのだ。直したはずのオーバーフローまで再発。なんでっ!? と探れば、NC-220がタンク内のサビや汚れを満遍なく削ぎ取りキャブまで持ってきてしまった様子。……洗浄効果あり過ぎですコレ。

続いて試したのはNC-900RCR。燃焼室の汚れを強力に取るというので、試しに施工前にシリンダーヘッドを外し中を確認。距離相応の比較的軽度な汚れで効果も期待できないかな、と思いつつイザ使用すれば、結果はご覧の通り。新品同様とはいかないまでも、確実に汚れを落としていた。ひとつひとつを取り上げれば小さな効果だろうが、それが積み重なれば体感できるモノになる? このパワーアッププログラム終了後はパワーチェックを行い、施工前ものと比較してみたい。後編となる次回には、キレイになった燃焼室をさらにチューニングするケミカルで、エンジンを仕上げます。

NC-220

タンクに注ぐだけの簡単ケミカルなのに、驚きの効果を発揮したNC-220。第1回目で紹介したNC-120キャブレター&インジェクションクリーナーを併用することで、さらに効果が期待できる。NC-220は100cc2本入りで税込み3675円。



NC-900RCR

エンジンを開けずに燃焼室を洗浄してしまう強力ケミカルのNC-900RCR。手間を掛けずに効果を上げるという、ケミカル本来の目的を高いレベルで実現。480ml入りで税込み6300円。店頭施工専用。

